

令和3年度鳥取県立博物館事業の事業計画案について

事業番号	事業名	事業概要	備考(変更点等)
1	企画展開催費	鳥取県の自然・歴史・美術分野の資料、作品、研究成果等や世界的・全国的に貴重な作品等について、企画展として広く県民に紹介する。(企画展名はすべて仮称) (1)美術(4/10～5/9) 受贈記念 垣田堅二郎コレクション展 (2)自然(7/17～8/29) QooDZILLA!!クジラとイルカの世界 ※読売新聞との連携企画展 (3)人文(10/9～11/7) とっつりの乱世 —因幡・伯耆からみた戦国時代— (4)美術(11/20～12/26) ～SOMPO美術館&鳥取県立博物館のコレクションでつくる～東郷青児、前田寛治と、Parisゆかりの画家たち (5)美術(2/11～3/21) 小早川秋聲展	○マスコミとの実行委員会方式での開催を継続予定 ○企画展(4)(5)は、新型コロナウイルスの影響で一部または全部が実施できなくなり、令和元年度に準備を行う経費として認められていた内容を修正・変更した。
1-1	企画展開催費(R4開催分)	令和4年度に計画している企画展の準備を行う経費。(開館50周年記念事業として位置づけ) (企画展名はすべて仮称) (1)春(人文) 三蔵法師がやってきた 奈良・薬師寺の名宝とともに (2)夏(自然) ティラノサウルス展 ～T.rex 驚異の肉食恐竜～ (3)秋(全分野) すべて見せます！鳥取県立博物館の50年 (4)冬(美術) 日本に”彫刻家”が誕生した —近代彫刻の黎明期における実践の状況	○令和4年度は昭和47年の開館から50周年を迎えるため、館内プロジェクトチームを置き、記念事業の内容を検討し、特色づけを行った。 ○この機会に、これまで年間5件開催していた企画展は開催時期を確保しつつ、4件に見直す。
2	博物館運営費	施設の維持管理、博物館を運営するための経費。 博物館が収蔵している約25万点におよぶ資料を害虫やカビ類などから守るための被害調査や防除対策を行う。	○施設の維持管理 ・直流電源装置用蓄電池 ・ポール式外灯の取替工事 ・低濃度PCB含有変圧器取替工事 ○公開承認施設の承認延長対策 令和3年12月に文化庁に延長を認めてもらうため、最低限必要となる展示ケースを整備する。(3/3年) ・エアタイトケース(ハイケース型)
3	博物館交流事業	中国、韓国、ロシアの博物館(河北省博物院、国立春川博物館、アルセーニエフ名称沿海地方国立博物館)との交流や情報交換等を行う。	新型コロナウイルスの影響で令和2年度は交流事業が実施できていないので、令和3年度の内容について相手方との調整が必要。

事業番号	事業名	事業概要	備考(変更点等)
4	自然事業費	自然部門(地学・生物・植物)の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。	○(終了) 昆虫標本整理専門員 (会計年度任用職員) ○(新規) 貝類標本整理専門員 (会計年度任用職員) (3年計画)
5	人文事業費	人文部門(考古・歴史・民俗)の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、藩政資料の整備、修復・情報発信を行う。あわせて、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。	(新規) 館蔵考古資料整理専門員 (会計年度任用職員) (3年計画)
6	美術事業費	美術部門(絵画・彫刻・工芸・写真等)の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。	博物館から美術館整備局が別組織となったため、これまでの博物館事業「鳥取県立美術館整備推進事業」と事業内容を整理した。
7	博物館普及事業費	県民の生涯学習や学校教育を支援するために、各種の講座や体験学習会、移動博物館などを実施するとともに、博物館の活動、研究成果、利用方法などについて広く情報を発信する。	
8	美術館・博物館等ネットワーク強化推進事業	鳥取県ミュージアム・ネットワークが実施する、 ①県内の美術館・博物館等における具体的な協力連携の取組 ②各館の歴史民俗資料の保存活用機能を向上させる取組 を支援することにより、県内の博物館等の連携基盤を確立してネットワークの強化を図る。	

令和3年度美術館整備局事業の事業計画案について

事業番号	事業名	事業概要	備考(変更点等)
1	鳥取県立美術館整備推進事業	令和6年度に開館予定の鳥取県立美術館をPFI手法により着実に整備及び開館準備業務を進めるとともに、開館に向けて、美術館活動の効果を先行して波及させ、県民と連携した美術館づくりを行う。 ①PFI等事業 ・PFI事業契約に基づき事業者を支払うサービス対価(債務負担行為設定済み) ・外部アドバイザーへの委託料等 ・美術館整備局の運営に要する経費 ②「美術ラーニングセンター」機能の充実に向けた検討事業【拡充】 ③「私たちの県民立美術館」普及啓発事業	○PFI事業契約に基づく当該年度のサービス対価

令和3年度企画展
「受贈記念 垣田堅二郎コレクション展」(仮称)
開催要項(案)

1 趣旨

鳥取県立博物館では令和2年度に、倉吉在住の垣田堅二郎氏より版画作品を中心に165点の美術作品の寄贈を受けることとなりました。これによって県立博物館の美術部門の近現代美術コレクションのうち、これまで所蔵作品が比較的少なかった近現代版画に関して一挙に作品の厚みが増すこととなります。寄贈を受けた作品は菅井汲(すがい くみ)や宇佐美圭司(うさみ けいじ)、李禹煥(リー・ウーファン)、小野木学(おのぎ まなぶ)といったよく知られた版画作家の代表的な作品であり、とりわけ銅版画において日本を代表する深澤幸雄(ふかざわ ゆきお)の作品約30点や日本でも人気のあるジョルジュ・ルオーの版画集「流れる星のサーカス」17点を含んでいます。

この受贈を記念して、県立博物館では「受贈記念 垣田堅二郎コレクション展」を開催することとしました。この展覧会では今回寄贈を受けた作品を全点展示して、近代から現代にいたる版画表現の多様性と可能性を紹介することとしています。

令和6年度には新しい県立美術館の開館が予定されています。県立美術館においてもコレクションの主要な一角を占めることとなるこれらの作品を初めて公開することで、県立美術館の建設に向かう気運を盛り上げていくこととしたいと思います。

2 会期 令和3年4月10日(土)から5月9日(日)まで
休館日：4月12日(月)、19日(月)、26日(月) 開館日数：27日間

3 会場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

4 観覧料 一般600円(団体・前売400円)
※大学生以下の方、70歳以上の方、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者、学校教育活動での引率者は無料
※実行委員会形式となる場合は、別途協議となります。

5 関連事業 展示解説などを予定

令和3年度企画展「受贈記念 垣田堅二郎コレクション展(仮称)」

展示イメージ(主な出品予定作品等)資料



菅井汲《GUEST I》1980年



深澤幸雄《銀河からの便り》1979年



加納告保《樹間落日》1987年



ジョルジュ・ルオー
版画集「流れる星のサーカス」より
《オーギュスト》1935年

令和3年度企画展
「QooDZILLA!! クジラとイルカの世界」(仮称)
開催要項(案)

1 趣旨

クジラ類は、恐竜をもしのぐ地球史上最大の動物であるとともに、陸上から海中生活への高度な適応を果たした特筆すべき哺乳類です。しかしながら、多くの人々にとってクジラ類は、大型クジラの雄大さや水族館等で見られるイルカ類の愛らしさ、かしこさなど、ごく限られたイメージが先行しており、野生動物としての実態については理解が十分であるとは言えない状況もあります。

本展覧会では、クジラ類の進化や水中生活への適応の様子を概観するとともに、形態や生態の多様性、とくに採餌や繁殖行動など動物としてのなまなましい姿にもスポットをあてます。そして、鳥取県におけるクジラ類の漂着記録等を紹介し、ストランディング調査の意義について考えたいと思います。

2 会 期 令和3年7月17日(土)から8月29日(日)まで
休館日：なし 開館日数：44日間

3 会 場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

4 主 催 鳥取県立博物館・読売新聞大阪本社

5 観覧料 一般700円(団体・前売500円)
※大学生以下の方、70歳以上の方、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者、学校教育活動での引率者は無料
※実行委員会形式となる場合は、別途協議となります。

6 展示内容

(1) クジラって、なんだ？

クジラは哺乳類／水中でくらす／クジラの仲間たち

(2) くらしとかたち

ハクジラの食事／ヒゲクジラの食事／食べたらどうなる？／クジラたちの恋／社会生活

(3) クジラのつくり方：四つ足動物がクジラになるまで

水中への適応／現生クジラに残る痕跡

(4) とっとりのクジラ

日本海のクジラ

7 関連事業 ギャラリートークなどを予定

企画展「QooDZILLA!! クジラとイルカの世界」展示資料イメージ



シャチ全身骨格



イルカ類剥製・レプリカ



アカボウクジラの胃袋乾燥標本



セミクジラのカジラひげ (長さ約 3m)



マッコウクジラ頭骨



マッコウクジラの胃内容物



マッコウクジラの「虫歯」



イッカク全身骨格



“泳ぎ歩くクジラ” アンブロケタス化石複製



シロナガスクジラ実物大高精細写真

令和3年度企画展
「とっとりの乱世—因幡・伯耆からみた戦国時代—」展(仮称)
開催要項(案)

1 趣旨

戦国時代の鳥取県域である因幡・伯耆国は、毛利・尼子・織田氏などの全国的に著名な戦国大名の勢力同士が接する「境目」とよばれる地域でした。そこは強力な戦国大名のお膝元では見られない複雑かつ興味深い歴史の舞台となっていました。しかし、鳥取県の戦国時代史については「鳥取城攻防戦」などが知られるものの、その全体像を知る機会は少ないのが現状です。しかし、近年「新鳥取県史」の編纂事業等により鳥取県に関わる資料の所在調査がすすみ、鳥取県の戦国時代史の研究状況は目覚ましい進展をみせています。

そこで、本展覧会では最新の研究成果を踏まえ、応仁・文明の乱(1467～1478年)を契機として始まる混乱から豊臣秀吉と毛利氏の講和が成立し乱世が終息の兆しを見せる「中国国分(ちゅうごくくにわけ)(1583年)にいたる因幡・伯耆国の約100年間の乱世の歴史を紹介します。

初公開資料も含む山名氏・南条氏など県域を治めた地元の領主たちのゆかりの品や、羽柴秀吉・毛利元就・吉川元春などの著名な戦国武将にかかわる重要な古文書・武具・肖像画等が一堂に会します。

また、鳥取藩主池田家はもちろん、藩士の中にも尾張(愛知県)・美濃(岐阜県)・近江(滋賀県)・播磨国(兵庫県)等の戦国時代の武将たちの末裔たちが多くいます。江戸時代の鳥取を生きた武士たちのルーツや、大切に受け継いできたゆかりの品々、戦国期池田家の歴史にかかわる資料も展示します。さらに、近年白熱する山城や郷土刀剣などについても紹介します。

本展覧会を通して、来館者に鳥取県の戦国時代史への理解を深めていただくのに加え、因幡・伯耆国から新しい戦国時代史を描きます。

2 会期 令和3年10月9日(土)から11月7日(日)まで
休館日：10月25日(月) 開館日数：29日間

3 会場 鳥取県立博物館第1・第2・第3特別展示室

4 観覧料 一般700円(団体・前売500円)
※大学生以下の方、70歳以上の方、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者、学校教育活動での引率者は無料
※実行委員会形式となる場合は、別途協議となります。

5 構成 1章 乱世のはじまりと因伯(室町末～戦国前期)
2章 乱世に翻弄される因伯(戦国中期、尼子vs毛利)
3章 乱世を克服する因伯(戦国末、尼子再興戦・毛利vs織田)
4章 池田氏の”センゴク”(池田家の戦国時代の紹介)
5章 鳥取藩士たちの履歴書(藩士家の紹介)



鉄■（金+青）十二間筋兜（伝山中鹿介所用、吉川史料館）



↑ 豊臣秀吉書状（「中川家文書」神戸大学所蔵）



尼子經久画像（山口博物館所蔵）



太刀 銘国宗（刀剣ワールド財団）

令和3年度企画展
「～SOMPO美術館&鳥取県立博物館のコレクションでつくる～
東郷青児、前田寛治と、Parisゆかりの画家たち」(仮称)
開催要項(案)

1 趣 旨

東郷青児(とうごう せいじ)は1897(明治30)年に鹿児島県生まれ、5歳で東京に転居した後、青山学院に学びました。若くして西欧の前衛的傾向の美術に触れ、1921(大正10)年に渡仏した後は、最初は未来派、さらにキュビズムやシュルレアリスムなど当時パリで勃興していた様々な芸術運動に刺激され、独自のスタイルを編み出しました。

1928(昭和3)年に帰国した東郷は二科展に滞欧作23点を特別陳列し、中心的な存在として活動する傍ら、装丁や挿絵、広告デザインから壁画まで広い分野で多くの仕事を手がけました。戦後は二科会の中心となってその再建と国際文化交流などにも力を尽くし、パリ市から文化功労章を贈られています。

一方、パリに憧れ、パリに渡った画家は東郷だけではありません。1896(明治29)年に鳥取県に生まれた前田寛治(まえた かんじ)もほぼ同時期にパリに留学し、アンドレ・ロートのもとで油彩画を学びます。この時期、前田や佐伯祐三(さえき ゆうぞう)ら共にパリに学んだ若き画家たちは帰朝して1930年協会を結成し、後の独立美術協会の母体となります。東郷が所属した二科会と独立美術協会は競い合うように活発に活動を続け、里見勝蔵(さとみ かつぞう)、児島善三郎(こじま ぜんざぶろう)といった日本の洋画の草創期を彩る才能たちが輩出しました。

東京のSOMPO美術館は、優れた西欧絵画のほか、東郷に関する340点にのぼる国内最大のコレクションで知られています。また、当館も素描を含む370点もの前田作品とその周辺に位置していた国内外の画家たちの作品を所蔵しています。

本展では、この両館のコレクションの中から滞欧期を中心に初期から晩年にいたる東郷と前田の代表作を紹介するとともに、藤田嗣治(ふじた つぐはる)、中川紀元(なかがわ きげん)、岡田謙三(おかだ けんぞう)、古賀春江(こが はるえ)、佐伯、里見らパリに学び、憧れた日本人画家たちの作品、さらには若き彼らに影響を与えたクールベ、ルノアール、ゴーギャン、ヴラマンク、ピカソといった巨匠たちの名品をあわせて80点ほど紹介します。本展を通じて、パリという歴史ある芸術の都がもたらした果実の魅力とその実像をあらためて見つめていただきたいと思います。

2 会 期 令和3年11月20日(土)から12月26日(日)まで
休館日：12月6日 開館日数：36日間

3 会 場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室

4 特別協力 SOMPO美術館(旧 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館)

5 観覧料 一般800円(団体・前売600円)
※大学生以下の方、70歳以上の方、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者、学校教育活動での引率者は無料
※実行委員会形式となる場合は、別途協議となります。

6 関連事業 特別講演会や展示解説などを予定

令和3年度企画展

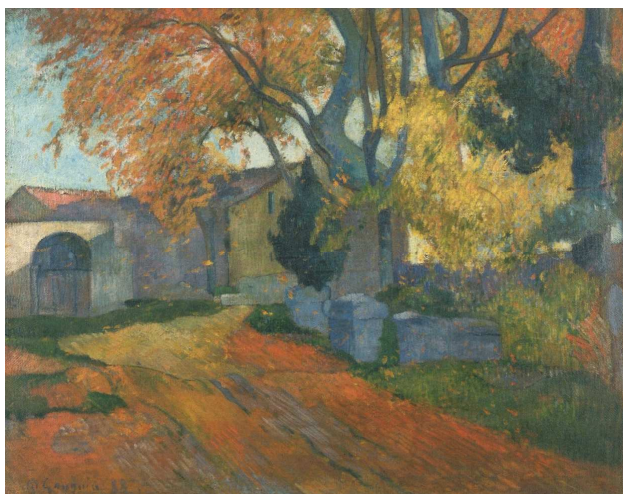
「～SOMPO美術館&鳥取県立博物館のコレクションでつくる～ 東郷青児、前田寛治と、Parisゆかりの画家たち(仮)」
展示イメージ(主な出品予定作品等)資料



東郷青児《ピエロ》1926年 SOMPO美術館蔵



前田寛治《西洋婦人像》1925年頃 当館蔵



ゴーギャン《アリスカンの並木道、アルル》1888年 SOMPO美術館蔵



ルノワール《帽子の娘》1910年 SOMPO美術館蔵



ユトリロ《モンマルトルのサクレ=クール寺院》1925年
SOMPO美術館蔵

令和3年度企画展
「小早川秋聲展」(仮称)
開催要項(案)

1 趣旨

大正から昭和にかけて活躍した日本画家、小早川秋聲(こばやかわ しゅうせい:1885~1974)の名が広く知られるようになったきっかけは、平成7年に「芸術新潮」8月号で“忘れられていた日本画家”による“幻の戦争画”として《国之楯》が紹介されたことでしょう。今日において、日本画壇における「戦争画家」秋聲の立ち位置は揺るぎないものの、平成12年に没後初となる回顧展が日南町美術館で開催されたことを皮切りに秋聲の画業に対する再検証が進み、戦争画の側面だけでは語り尽くせない「画家」秋聲の独自性が徐々に明らかとなりました。近年、秋聲への再評価は急速に進みつつあります。

秋聲は、日野郡黒坂村(現 日野町黒坂)光徳寺の住職、小早川鐵僊(こばやかわ てっせん)の長男として神戸に生まれます。僧籍に入り、15歳で父とともに光徳寺へ帰郷するも画家になることを志して日本画家 谷口香嶺(たにぐち こうきょう)、山元春挙(やまもと しゅんきょ)に師事。20代からは中国、欧州、北米など各国を外遊し、東洋・西洋美術を研究して文展、帝展、日本美術協会展など各展覧会で頭角を現しました。昭和6年に従軍して以降は本格的な戦争画制作に携わり、戦争画における代表的な日本画家となります。しかし、昭和19年、従軍中の疲労により大病を患い、戦後は大作を制作できるまで体調が回復せぬまま、昭和49年に88歳で亡くなりました。

今回の展覧会は秋聲没後初となる京都・東京・鳥取での巡回展であり、秋聲の代表作から資料までを一堂に集めた初の大規模回顧展となります。京都で修行した画業初期から、異文化の影響を受けつつ実験的な作品を生み出した青年期。そして、戦争画と戦後の作品に見る祈りの世界。近年新たに見つかった作品も含め、代表作と資料を基に“異色”の郷土作家の全貌に迫ります。

- 2 会期 令和4年2月11日(金・祝)から3月21日(日)まで
休館日:会期中の毎週月曜日(3月21日(月・祝)を除く) 開館日数:34日間
- 3 会場 鳥取県立博物館 第1・第2・第3特別展示室
- 4 制作協力 BSフジ、ZEPPIジャパン
- 5 観覧料 一般800円(団体・前売600円)
※大学生以下の方、70歳以上の方、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者、学校教育活動での引率者は無料
※実行委員会形式となる場合は、別途協議となります。
- 6 関連事業 特別講演会や展示解説などを予定

令和3年度企画展「小早川秋聲展(仮称)」 展示作品(予定)



《国之楯》 1944年 京都靈山護国神社所蔵



《氷雨降る宵》大正時代
当館蔵



《天下和順》 1953年
当館蔵



《日本刀》 1939年
京都靈山護国神社所蔵



《絲綢之路》大正時代 当館蔵